

(10) 四 国



四国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、\_は下方に変更)。

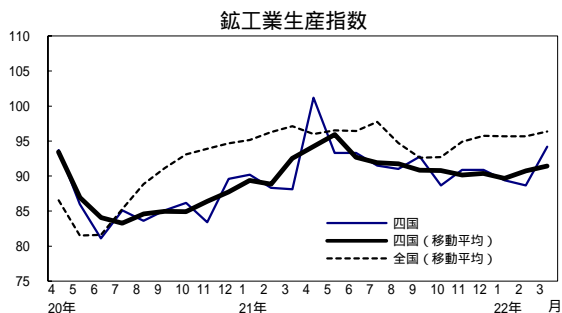
前回からの主要変更点

	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、パルプ・紙・紙加工品や食料品が増加したこと等により、前期比0.7%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
化学・石油石炭	22.1	1.1	0.6	20.5	5.1	26.3
食料品	13.8	0.4	2.7	2.1	14.5	3.1
電気機械	12.8	6.5	2.8	6.4	7.7	12.3
汎用・生産用機械	11.3	1.4	3.3	19.9	14.7	9.5
輸送機械	7.9	4.9	0.1	3.5	2.2	11.1
鉱工業	100.0	1.7	0.7	1.7	0.8	6.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

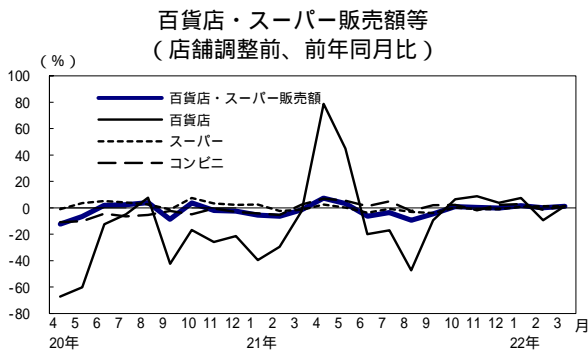
1 - 3月期は前期比0.5%減となった。月別にみると、1月は前月比1.4%減、2月は同0.8%減、3月は同1.8%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比1.1%増となった。月別にみると、1月は前年同月比1.8%増、2月は同0.0%減、3月は同1.3%増となった。

百貨店は、1 - 3月期は前年同期比0.2%増となった。

スーパーは、1 - 3月期は同1.2%増となった。

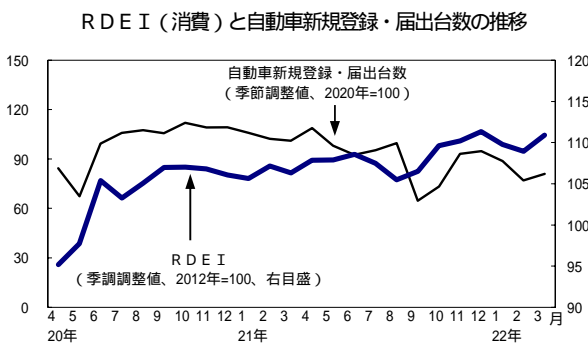


	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.5	1.4	0.8	1.8
百貨店・スーパー(*2)	1.1	1.8	0.0	1.3
百貨店(*2)	0.2	7.6	9.4	1.4
スーパー(*2)	1.2	1.0	1.3	1.3
コンビニ(*2)	1.0	2.9	1.3	1.3
乗用車(*3)	20.5	16.2	25.0	20.0
(季節調整値)(*3)	5.5	6.3	13.4	5.4

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

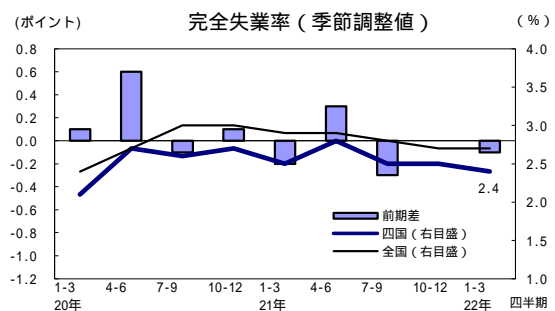
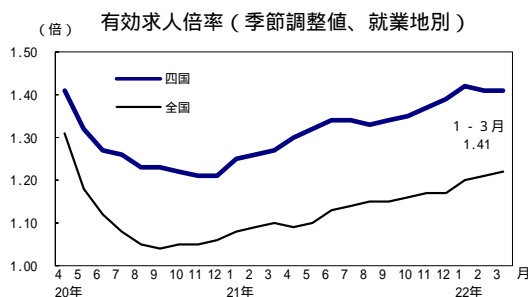
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・コロナ禍が落ち着きつつあり、急激ではないが、来客数も増加傾向にある(一般レストラン)。
			・家電についても物価の上昇により値上げ商品はあるが、売上への影響はみられない。逆に部品不足による入荷未定商品が増えチャンスロスが出始めている(家電量販店)。
			・まん延防止等重点措置が解除され、外食に戻りつつある(スーパー)。
	企業 動向 関連		・燃料油価格の高騰が長期化するなか、運賃料金値上げに向けた動きが活発化している。また取引先からも運賃料金の値上げ要請の動きが顕著になりつつある(輸送業)。
			・まん延防止等重点措置の解除に伴い、社外イベント等も新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら再開しつつある(通信業)。 ・新型コロナウイルス及びウクライナ情勢の影響を受け原料価格の上昇が止まらない。販売価格改定交渉を行っているが、原料価格上昇の伸びが早すぎて対応が追いつかない。今後原料の供給も含め不安な状態(木材木製品製造業)。
雇用 関連		・県内の有効求人倍率も上昇傾向であり、求人数も上昇している(学校[大学])。 ・当県では、4月以降の感染拡大を受け、経済の停滞が続いている。飲食、宿泊業界においては、3月に1度回復傾向にあったものの感染拡大により宴会、宿泊の自粛、キャンセルが相次ぎ景気は停滞している(求人情報誌)。	
その他の特徴 コメント			：新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しておらず来客数は少ないままであるが、インターネットによる母の日の予約が例年になく早くから入ってきている。原油価格高騰と海外の新型コロナウイルスの影響で輸入カーネーションの入荷量が減少しており、母の日近くには売り切れが予想される(一般小売店[生花])。 ：当社の業績はメーカーの生産状況に大きく影響を受けるため、生産状況が改善すれば好転する(乗用車販売店)。
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルス感染症の影響は、様々な行動規制の緩和により薄れてきている。一方で、円安状態が継続しており、生活用品等の値上げの影響を消費者が徐々に感じ始める時期であることから、消費活動が今後どのように推移していくのが不安である(商店街)。
			・新型コロナウイルス感染症の収束状況次第ではあるが、少しずつ景気は良くなると期待している(その他小売[ショッピングセンター])。
	企業 動向 関連		・受注数はある程度見込めても、人手不足が続いているため、生産や販売量は現状が続くと予想する(鉄鋼業)。
			・新型コロナウイルスの感染再拡大やウクライナ情勢等の影響により景気が悪化すると思う(税理士事務所)。
	雇用 関連		・物価上昇に伴う値上げ等が消費ニーズにどこまで影響するか懸念材料はあるが、これから長期休暇に向けて集客イベントが平常の開催予定となるため、施設の運営や公共交通機関、観光業施設の求人ニーズが高まると予想する(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント			：ふたつきのウェットティッシュとキッチンペーパーの工場を新設したため、今後販路を拡大し売上を増加させる予定である(パルプ・紙・紙加工品製造業)。 ：今後の客の動向を予想することは難しく、先行きは不透明である(その他専門店[酒])。

( D I ) 現状・先行き判断 D I (四国) の推移 (季節調整値)

